

令和 3 年度における主な実施事業

【森づくり】

1 森づくり団地による集約化が市内人工林の半数を突破

豊田市では、平成 12 年の東海豪雨による被災を教訓に、市内に約27,000ha あるスギ・ヒノキの人工林の健全化を目的に、間伐を中心とした森林整備を行っています。森林整備においては、効率的かつ計画的に推進する手法として、所有者が異なる森林をとりまとめる「森づくり団地化」という豊田市独自の手法を平成 19 年度から実施しており、令和 3 年度末において団地化された面積は 14,335ha を達成し、市内の私有人工林面積の半数が集約されました（令和 3 年度版白書 P.1,3,4,29~33 参照）。

【森林環境教育】

2 豊田市・森の総合サイト「Tomori」がオープン

豊田市の森林に関する情報を広く普及するため、新たに森の総合サイト「Tomori」をオープンしました。このサイトでは、森林環境教育講座への参加申込みをはじめ、地域材利用や森林に係る手続きなどの森林に関する幅広い情報を発信しています（令和 3 年度版白書 P.12 参照）。



森の総合サイト Tomori

3 豊田市の森の魅力を発信する動画が完成

子どもたちに森の楽しさや美しさ、森林整備の大切さなどを伝えるために、森の四季の美しさや森に携わる人達を紹介する動画「きっと行きたくなる 豊田市の森」を作成しました。動画は、令和 4 年 5 月から市公式 YouTube チャンネルで公開しています（令和 3 年度版白書 P.12 参照）。



魅力発信動画

【林道】

4 災害に強い林道を目指した予防監視型林道管理への転換

林道災害の最小化及び林道管理の省力化を図るため、林道の損傷箇所を発見後に修繕を行う、これまでの事後保全型の管理から、定期的な林道パトロールとともに施設点検や側溝^{しゅんせつ}浚渫などの予防監視型の管理への転換を開始しました（令和 3 年度版白書 P.19 参照）。

【デジタル技術活用】

5 森林整備の効率化に向けたデジタル技術の推進

デジタル技術を活用した森林整備の効率化を積極的に進めており、小型無人ヘリを活用した森づくり団地の境界確認の実証実験を行いました。また、林道事業において現地測量と航空レーザ測量、地上レーザ測量の比較検証の結果から、それぞれの測量のメリット、デメリットを整理した上で林道の計画・設計、災害復旧における効果的な測量・設計フローを作成しました。これらの取り組みについて、林業関係者等を対象に報告しました（令和 3 年度版白書 P.15 参照）。